

『日口外誌』用字用語例

〔×印＝使わない ○印＝使う〕

現在「日口外誌」では下記のように用字用語を用いておりますので、これに基づき使用するようご協力をお願い申し上げます。

×	＜あ＞	○	×	＜て・と＞	○	×	○
凡ゆる		あらゆる	出来る		できる	洗滌	洗浄
或, 或いは		ある, あるいは	時々		ときどき	萌出	萌出
表 (現) わす		言葉に表す 姿を現す	何処		どこ	上口唇	上唇
			～する所の		～するところの	下口唇	下唇
	＜い・う＞		所々		ところどころ	口腔底	口底
言う, いう		彼の言うこと そういうこと	～共		両方とも	レントゲン	X線, エックス線
如何に		いかに	伴なう		伴う	廓清	郭清
一旦		いったん		＜な＞		ビ漫	瀰漫, びまん
～し得る		～しうる (助動)	無い		ない	ウ蝕	齶蝕, う蝕
～しえる		許可を得る	尚, 尚更		なお, なおさら	頤	オトガイ
	＜お＞		～の中, 中には		～のなか, なかには	歯齦	歯肉
凡そ		およそ	中々, 仲々		なかなか	頸	頸
及び (接続詞)		および	ならぶ (動詞)		並ぶ	論文中で統一すれば, どちらを用いても良いもの	
およぶ (動詞)		及ぶ	～なる (成る)		AとBから成る 小さくなる		
行なう		行う		＜は・ほ＞		いたる	至る
	＜か＞		甚だ		はなはだ	いろいろ	色々
且つ		かつ	殆ど		ほとんど	おおむね	概ね
必らず		必ず		＜ま＞		おのおの	各々
	＜こ＞		先ず		まず	きたす	来たす
事 (こと)		事を起こす ～することが	又 (接続詞)		また	きわめて	極めて
～毎に		～ごとに	まったく		全く	ごとく	如く
此の		この	稀に, 希に		まれに	さらに	更に
異なる		異なる		＜み＞		すでに	既に
	＜さ・し＞		見る, 観る, 看る		みる	ただちに	直ちに
様々		さまざま	診る, 視る			たとえば	例えば
併し		しかし	見い出す		見出す	ともに (副詞)	共に
然も, 然るに		しかも, しかるに		＜も＞		ならびに	並びに
従って (接続詞)		したがって	勿論		もちろん	わたくし	私
したがう (動詞)		従う	以って		もって	われわれ	我々
	＜す＞		持つ		もつ		
少い		少ない		＜や・ゆ・よ＞			
即ち		すなわち	～し易い		～しやすい		
全て, 総て, 凡て		すべて	故に		ゆえに		
	＜せ・そ＞		～の様に		～のように		
是非		ぜひ		＜わ＞			
其の		その	亘って		わたって		
夫, 其, 夫々		それ, それぞれ		＜その他＞			
	＜た・ち＞		1ヶ		1個	※『蝕』・『囊』・『頰』の漢字につきましては, 印刷時に『蝕』・『囊』・『頰』の字体に置換えさせて頂いておりますのでご了承ください。	
為		ため	～ヶ月, ～カ月		～か月		
因みに		ちなみに	才		歳		
			年令		年齢		

日口外誌の統一用語

用語は、原則として「日本歯科医学会編 学術用語集第2版（医歯薬出版、2018年12月発行）に準じる。

提起された用語	検 討 結 果
◆専門学会が学術用語を定めている場合には、それに準じて使用する。	
口腔外科に関する専門用語について	「口腔顎顔面外科学専門用語集 2011(初版), 日本口腔外科学会編 2011, 医歯薬出版」
補綴学用語について	「歯科補綴学専門用語集 (第4版), 日本補綴歯科学会編, 2015, 医歯薬出版」
解剖学用語について	「解剖学用語, (改訂13版), 日本解剖学会編, 2007, 医学書院」追加正誤表が日本解剖学会 HP に公開
インプラント用語について	「口腔インプラント学学術用語集 (第3版), 日本口腔インプラント学会編, 2014, 医歯薬出版」
早期癌などの定義について	「日本癌治療学会・癌規約総論, 日本癌治療学会編, 1991, 金原出版」
顎変形症の関連用語について	「顎変形症学会統一用語および用法 (改訂版) 日本顎変形症学会雑誌 2016」
◆発音, 日本語表記について	
bisphosphonate	ビスホスホネート
hydroxyapatite	ハイドロキシアパタイト
adjuvant chemotherapy	補助化学療法
fibronectin	フィブロネクチン
model surgery	モデルサージェリー
orofaciogigital syndrome	口腔・顔面・指趾症候群
orthognathic surgery	顎矯正手術
osteodystrophy	骨異栄養症
osteodysplasia	骨異形成症
fibrous dysplasia	線維性異形成症 (線維性骨異形成症は使わない)
osseous dysplasia	骨性異形成症
dentigerous cyst	含歯性嚢胞
follicular dental cyst	濾胞性歯嚢胞→含歯性嚢胞を用いることが望ましい。
lateral cervical cyst	側頸嚢胞
branchial cyst	鰓嚢胞 病理組織学的にはリンパ上皮性嚢胞。
postoperative maxillary cyst	術後性上顎嚢胞
◆日本語表記が未定のものは英語表記のままとする。	
density (CTの場合のdensity)	} 英語表記のままとする。
DNA aneuploidy	

提起された用語	検 討 結 果
◆疾患名等の日本語表記について	
Warthin 腫瘍と腺リンパ腫	いずれを用いてもよい。
進行癌と進展癌	いずれを用いてもよい。
多形腺腫	多形性腺腫は用いない。
唇顎口蓋裂等	「口唇裂・口蓋裂」は病態の総称。「唇顎口蓋裂」「口唇口蓋裂」は破裂形態を示す。
蜂窩織炎と蜂巣炎	いずれを用いてもよい。
骨折の診断名を表記する場合	骨の名称をいれる。 例：○下顎骨骨折, ×下顎骨折
◆その他の用語について	
実験動物名はカタカナ表記とする。	家兎は「ウサギ」, 猫は「ネコ」とする。
ウサギの数え方	「何匹」と表記する。
抗生剤と抗生物質 抗菌剤と抗菌薬	抗菌薬に統一する。
歯牙と歯	できるだけ「歯」を用いる。
異和感と違和感	違和感に統一する。
舌縁と舌側縁	舌縁に統一する。
切除物	切除標本を用いる。
摘出物	摘出標本を用いる。
◆自由表記とするもの (論文の中ではいずれかに統一すること)	
1 例と一例	} 自由表記とする
1 症例と 1 例	
～歳代と～歳台	
部位の表記について	例) 上顎左側第一小臼歯か左側上顎第一小臼歯か, 上顎左側臼歯部か左側上顎臼歯部などはどちらでもよい。